

蛙の 独り言

登米祝祭劇場館長

山田 悦且

はない音が聴けた。音楽「ばす」の意で、開催は年がちよっぴり好きになつた」と話した。

佐藤よし子校長は「見てきた。」

童は音楽のすこさを実感したはず。プロの音に触れる機会がないので、あ

5年目を迎えた「アウ

「ばちを二本ずつ両手に持ったマリimba。ペダル

どこへでも出向きコンサート

本物の音に児童酔う

登米市立浅水小学校と横山小学校の体育館が5月26日、コンサート会場に変身した。出演はハーブ奏者の早川りさこさんと、マリimba奏者の竹島悟史さん。NHK交響楽団に所属する一流プロの音色に、児童らは言葉を失った。

で1本の弦から3つの音を出すハーブ。驚いた。横山小に同行した。5年生の佐々木友恵さんは

守ってきた。

「家庭に花があるように、音楽も身近に感じてほしい。演奏会の前後に曲の解説や音楽家の人と

なりを知る時間があれば、クラシック音楽がもっと身近になるはず」と話す。

かかり、多くの学校を回るにも限界がある。そこで、県や国の外郭団体から助成金を受ける一方、地元

また、「音楽と言えは演歌」が全国的な傾向。登米市もその例に漏れない。その地にクラシック音楽の種をまく。果たして芽吹くのか。序の口が横綱に胸を借りるような、ささやかな挑戦が今日も続く。



生まれて初めてハーブに触れる児童たち
—登米市立横山小

山あひの児より瞬き奪ふがに誰が奏つるか
清けき音色

アウ